

2015年3月5日
No. 1502

3月21日(土)
本部役員会議 10:00
支部等代表者会議 13:30
(アイリス愛知)

現 評

愛知県職連合会
現業評議会

名古屋市中区三の丸3-2-1
東大手庁舎 4階
代 表 052-951-4036
F A X 0120-930-340
www.aichikenshoku.gr.jp
gengyou15@aichikenshoku.gr.jp



現業評議会学習講座盛大に開催 現業職員の要求課題を明確化

2月6日・7日の2日間、蒲郡市のサンヒルズ三河湾において、役員学習講座を開催しました。30名の本部役員・支部役員が参加し、現業職員の給与について学習するとともに、活発な意見交換を行い、1年間の取り組みを確認しました。

現業役員講座1日目

白頭議長があいさつで最近の現業職員を取り巻く状況を話された後、続いて、本部柴田副委員長から、今後の定数管理と「2015職場要求」の取り組みについて情勢報告がありました。

田邊事務局長から「現業職員の給与体系について」というテーマで、給与体系の見直しの経緯と課題について、説明がありました。

まず「平成18年給与構造改革」「平成23年現業職員の給与見直し」そして今年度の「給与制度の総合的見直し」によってどのような影響があったのか解説し、問題点を提起して、分散会での意見・討論につなげました。

特に強調された点は、平成23年に行(二)給料表適用になっ



た際の号給を増設した部分(足伸ばし)について、28年度末で経過措置の5年間が終わり、当局との交渉があると予想されることから、現業組合員の理解を深めるとともに、一層の現業組合員の団結が大切であるということでした。

分散会では、参加者を2グループに分け、活発な意見交換が行われました。(裏面参照)

一日目の最後は長坂委員長も交えて夕食・交

流会が行われ、普段直接あまり話をする機会が少ない仲間達と深夜まで盛り上がりました。

現業役員講座2日目

白頭議長から『総合要求・職場要求』の重要性について説明があり、質疑応答ではそれぞれの職場で抱える問題点について、意見・要望が出されました。

続いて前日の分散会の内容について林副議長と名倉常任委員から報告があり、総合要求・職場要求につなげていくとされました。

次に2015年度の年間行動計画について、永田常任委員から説明され、1年間の取り組みを確認しました。

最後に、職場集会の開催予定について、田邊事務局長から報告され、まだ決まっていない職場でも、今後実施していくこととしました。【裏面に続く】

分散会

現業評議会に結集し

現業職員の要望を実現

主な意見・要望

【給与】

- ・現業職給料表の足伸ばし部分の取り扱いについては、難しい問題なのでよく考えながら交渉してほしい。
- ・この頃の給料の伸び悩みで住宅ローンの返済が厳しくなってきた、奥さんにも働いてもらっている。

- ・若い職員は、今の給料表では定年までに今の水準の給料まで到達しない。

ので、運用面を人事課と話し合いをしてほしい。

- ・現業職員独自の給料表になつたので運用面で一般職との格差があるのはおかしい。

- ・28年度交渉ではまず取れるものを交渉し現業職の最終的に目指す給料表、処遇については引き続き交渉の余地を残すようがんばってほしい。

現評本部

28年度の給与交渉については、27年度中に全体の意見、要望を幅広く集約し、討議して方向性を定め、当局との話し合いに備えたい。

【昇任】

- ・病院給食について、以前は主査がいたが、今は認めてもらえない。

- ・最低でも主任在職10年で5級昇格を実現しなければ意味がないのでは。



人事評価制度の活用が鍵である。

- ・5級昇格の道がないのであれば、4級を5級給料並みまで足伸ばしをしてはどうか。

- ・昇任に対するある程度の目安となる指針を明示するようしてほしい。

【人事評価】

- ・人事評価制度は主査級までしか給料表がないのにやる必要があるのか。

- ・人事評価制度が仕事のか疑問である。

- ・もっと個人のやる気を引き出すような運用をしてほしい。現在のやり方

では自分のがんばりに対しての評価が全体の中に埋もれてしまいモチベーションを保ちにくい。

現評本部

現業組合員が人事評価制度で良好な評価を得ていけるよう、現業評議会としても、学習活動等に取り組んでいきたい。

【55歳の昇給停止】

- ・55歳を超える職員の実質昇給停止について、現在どうなっているのか。2015年度には決定的なのか。

現評本部

まだ決まっていないが、現状では、55歳は5級昇任年齢なので昇給停止は大変なことになるという認識はもっている。

【病院の独立行政法人化】

- ・病院は現在独立行政法人化の議論がある。定年まで15年以上あり県職員の身分のまま定年を迎えられるのか不安である。現在の給料表問題よりも深刻な悩みである。

平成27年度農場員及び家畜飼養管理員を募集

昨年引き続き現業職員の募集が行われ、5名の合格が発表されています。畜産総合センターや農業総合試験場に新しい仲間を迎えることとなります。まずは、職場に定着し、新しい仲間として、共にがんばってほしいものです。



【その他】

- ・現業職そのものをなくし一般職としてはどうか。
- ・他府県はどのようなやり方しているのか情報がほしい。
- ・人員要求について仕事量は変わらないが、実質職員数は減る一方である。
- ・露骨な公務員攻撃はなんとかならないのか。

現評本部

みなさんの思いを解決するため、いっそう現業評議会に結集して運動をすすめていきましよう。

